

遅れてきた実力派はひと味違う 初のハイブリッド来たる

中国のプロオーディオ市場で高いシェアを誇るIEM(インイヤーマニター)ブランド、qdc。バランスのよい音づくりで通を魅了する同社のイヤホンに、待望のハイブリッド型モデルが加わった。ハイブリッド型がトレンドとなって久しいが、qdcが満を持して送り込んだ「Fusion」の実力はいかに？

文/高橋 敦

ハイブリッド型イヤホン

qdc Fusion

¥OPEN ▶投票 No.127



SPEC ●型式：ハイブリッド型 ●ドライバー構成：ダイナミック型×1(Low)+BA型×4(Mid×2, High×2) ●ドライバー口径：10mm ●再生周波数帯域：10~20,000Hz ●インピーダンス：18Ω ●ケーブルの長さ：約1.22m ●質量：非公開 ●付属品：イヤークリップ(シリコン)：S/M×2/L、ダブルフレンジ：S/M/L、標準変換プラグ、航空機用変換プラグ、クリーニングツール、キャリングケース ほか

優れたバランスの上に声や楽器が生々しく展開

中国屈指のイヤーマニターブランドのひとつqdcから、同社としては初のハイブリッド構成を採用した新モデル「Fusion」が登場した。モデル名の由来は、ジャズを核にブルースやロックなさまざまなジャンルのサウンドが融合して生まれた音楽スタイル「フュージョン」。それをダイナミック型とバランスド・アーマチュア(BA)型の融合になぞらえたというわけだ。

同社はこれまで、BA型ドライバーのみを用いた堅実なドライバー構成に注力し、その完成度を引き上げ続けてきたことで評価を高めてきた。軍や警察に向けた音響機器の開発も手がけることから、好ましい意味での手堅さ慎重さを感じさせる開発姿勢が印象的なブランドだ。つまり、「流行りだからそろそろハイブリッドも出しておこう」といったノリで中途半端な製品をつくるような彼らではない。qdcがハイブリッドを開発し発売したということは、本気で取り組んだ超自信作ハイブリッドが完成した、ということにほかならない。

ドライバー構成は低域にダイナミック型1基、中域と高域にBA型を2基ずつというオーソドックスな3ウェイ・ハイブリッド。しかし、普通の構成を普通ではなくハイレベルに仕上げるのがqdcだ。帯域分割を行うネットワークの緻密な設計や、ダイナミック型ドライバーを独立した音響空間に設置するなど特許取得済みのアコースティック構造

などによって、各ドライバーそれぞれのポテンシャルを引き出してまとめあげつつ、ハイブリッド構成全体としての調和も獲得。初のハイブリッド機にしてqdcらしいトータルバランスを備えたサウンドを生み出している。

その優れたバランスの上に展開される音について印象的なのは、声や楽器の生々しさだ。音の見え方や手触り感がクリアすぎずナチュラル。たとえば星野源『アイデア』は弾き語り、バンドサウンド、エレクトロサウンドが交錯する構成だが、このイヤホンは弾き語りとバンドの要素を特に魅力的に届けてくれる。それでいてエレクトロの要素が引っ込んでしまうわけではなく、すべてのバランスを確保した上で届けてくれるところがqdcらしい。

加えてローエンドの充実もポイント。SANABAGUN、『Fever』を聴くと、ヒップホップ的な空気感のバスドラムのその低い響きの豊かさまでがしっかりと描き出されている。ここはまさに、ダイナミック型を含むハイブリッド構成の恩恵といえるだろう。

サウンドだけではなくもちろん、耳に吸いつくようなフィット感や、大理石のような模様が入った「Kallaita」フェイスプレートの美しさもqdcクオリティ。ただのハイブリッドではない、「qdcのハイブリッド」だからこそその魅力にあふれたニューモデルの登場だ。

DETAIL



ダイナミック型ユニットを独立設置

特許取得済みの音響設計を採用。音響空間と音導管によりダイナミック型ドライバーを独立させることで、従来はできなかったアッセンブリーの前段階でのチューニングが可能に。これにより、ダイナミック型ドライバーの振幅が筐体内部の空間やエアフローの影響を受けることなく、一貫してフラットな周波数特性を獲得するという。

SOUND

[音の傾向] 広がり ———●——— 密度感重視
[高域の表現] キラキラ ———●——— ナチュラル
[低域の表現] ハード ———●——— ソフト

ロック ★★★★★
アニソン ★★★★★
クラブ系 ★★★★★
クラシック ★★★★★

CHECK

ワイヤレス化もできる

「Fusion」や「TrES」をはじめとするqdc 2pinコネクタ搭載イヤホンをワイヤレスイヤホンとして楽しめるBluetoothケーブル「BTX Cable」もラインアップ。イコライザー機能を搭載し、音の違いを楽しめるのも魅力。

Bluetoothケーブル qdc BTX Cable

¥OPEN ▶投票 No.128



LINEUP

Fusionベースに日本向けチューニング! 150台限定



ハイブリッド型イヤホン TrES

¥OPEN ▶投票 No.129

SPEC ●型式：ハイブリッド型 ●ドライバー構成：ダイナミック型×1(Low)+BA型×4(Mid×2, High×2) ●ドライバー口径：10mm

クリアでソリッドな強靭さが持ち味

Fusionをベースに日本代理店ミックスウェーブの提案を取り入れたチューニングが施された、日本限定発売モデル。中高域はナチュラル感重視のFusionに対してこちらはクリア志向、中低域は豊かさ重視のFusionに対してこちらは音の芯をゴリッと出したソリッドな強靭さが持ち味といった印象だ。たとえば星野源『アイデア』ではエレクトロサウンドの見え方がより明瞭になり、SANABAGUN、『Fever』だとベースのドライブ感がより強まる。(高橋 敦)

SOUND

[音の傾向] 広がり ———●——— 密度感重視
[高域の表現] キラキラ ———●——— ナチュラル
[低域の表現] ハード ———●——— ソフト

ロック ★★★★★ クラブ系 ★★★★★
アニソン ★★★★★ クラシック ★★★★★